

1. 兵役

(※ 関連資料のある箇所は太字で示してあります。)

7. (1) 安倍能成文部大臣の米国教育使節団を迎える挨拶

【木 田】腹がへって苦しい。食べ物は、一生懸命になってタピオカというお芋の類を植えては、小便をかけて早く大きくなれとやっているんですが。そういうときにですね、ちょうど3月だったと思う、年が明けてですよ、まだ(昭和)21年の3月ごろだったと思うんですが、年が明けましてね、たまにシンガポールからいろんなものが送られてくる。その中に日本でこんなことが起こっているという、小さいタブロイド判の新聞みたいなものが入っておりまして、ふっと星明りでこうやって透かして見たらですね、安倍能成文部大臣がアメリカの教育使節団を迎えて、こういう挨拶をしたという全文が載っていたわけです。それが皆さんのお手元に差し上げた文章なんです(資料 1-3)。私は腹がすくし、病人はまわりにごろごろしているし、いつ帰れるかわからない。しょうがないなあと思いながらおったときなんですが、ひょっと 1 枚のタブロイド判を見ましたらね、これのほぼ全文が載っていました。で、やっぱり読んで感激をしたんですね。

(昭和)21年3月8日に大臣が挨拶をして、それで第1次教育使節団が来たという、そして日本の教育を立て直そうという勢いで乗り込んできた。これ読んでいますと、例えば、初め今度の戦争は、日本もちょっと間違ったことがあったけれども、(資料 1-3 の)2 枚目、464 ページの終わりの方に、「勝てば官軍、負ければこれ賊」ということわざがあるんだが、勝手なことをしたってだめですよということを言うと言われるんですね。だから「貴国が戦勝国たるが故に正義と真理とを枉げることなきを信じ、その戦勝国たる重圧が—これは率直に言って我々は感ぜずには居られません—我国に於ける正義と真理との滲透を促進し、我国の社会に存する様々の不正や欠陥、国民の性格や習慣に促はれる様々の弱点や悪弊を速かに力強く除去する一つの契機となり・・・」というようなことがあります。、「よき戦勝国たり戦勝国民たることも仲々困難であります。我々は敗戦国として卑屈ならざらんことを欲すると共に貴国が戦勝国として無用に驕傲ならざるを信ずるものであります。」と。そして自分の教育理念をおっしゃっているんですね。いやあこれをその星明りで読んだときには本当に感激をしました。